

令和5年3月31日

令和4年度

# 事業報告

社会福祉法人 シルヴァーウィング

特別養護老人ホーム 新とみ

短期入所生活介護 新とみ

通所介護 新とみ

ウィング訪問ケアステーション

## I. 施設関係

### 1. 特別養護老人ホーム

#### (1) はじめに

本年度は定員 40 名に対し、34.4 名の入所者数でした。月平均利用者実人員は 36.5 名と、昨年と比較し 0.8 名の増加です。長期入院、看取りなどによる退所者は 11 名、新規利用者は 10 名です。年度末現在の利用者の平均年齢は、男性 81.7 歳、女性 87.3 歳であり、男女合計の平均年齢は 85.4 歳です。なお、特養の年間平均稼働率は 86.03% です。令和 3 年度 82.96 に比べると、稼働率は 3.07%上がっています。

表 1 前年度との比較 定員 40 名

項目	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
平均年齢	88.4 歳	86.4 歳	85.4 歳
平均介護度	4.3	4.22	4.15
年度末平均人数	32 人	36 人	34.4 人
延べ定員数	14,600 人	14,600 人	14,600 人
1 日平均利用者数	31.6 人	33.2 人	34.4 人
稼働率	79.32%	82.96%	86.03%

表 2 退所者 令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

退所者	人数	理由
死亡	3 人	入院による死亡
死亡	7 人	施設での看取り
入院	1 人	療養型病院へ入院
その他	0 人	在宅復帰→新とみ通所介護へ変更

#### (1) 入・退所の現状

- ①入院以外は、施設での看取りを行い、看護師・介護職・嘱託医・家族との連携を密に長く過ごしていただいた居室にて、最期を迎えてもらうことができました。  
本年度は 7 名と、看取りでお見送りした利用者が多い年度でしたが、ご家族についても年々看取りへの希望が高まっている状況です。
- ②新規利用者は 10 名でした。新規利用者については、入所後、環境の変化による心身の変動が見られることが多く、様子観察に注力しました。比較的施設の環境に慣れていただけた利用者が多く、ご家族と連携をとりつつ、一人ひとりの生活の形を整えていきました。
- ③ 新規利用者の声かけにおいては、中央区で入所調整したリストに沿って声かけをするシ

システムになっているが、入所に時間がかかるケースが多くなっており、自宅での介護を希望するご家族も増えているのが現状です。

声かけにより、断られる理由として

- ・他施設との併願のため、すでに他施設への入所が決まっている
- ・現在入所している施設(有料・老健・グループホーム等)で満足している
- ・まだ在宅で、介護をしていきたい

## (2) 事業実績について

利用者の平均介護度は令和2年度の4.3に対し、令和3年度は4.22とほぼ変わりなく推移しています。(別表2参照) 特養での対策としては、健康管理下で一層の介護の充実を図るとともに利用者の事故や病気のための入院を極力抑えることです。そのため

- ①健康管理の徹底、衛生管理の徹底、日常生活での異常に対する早期発見・早期対応の徹底。
- ②ハード面の充実として、インフルエンザやノロウィルスの感染防止他、感染拡大の新型コロナウイルスへの防止策として、空気清浄機他、施設全体の除菌剤の配置などを強化しました。
- ③嘱託医による利用者の心身の定期的な健康管理として
  - ・定期的な健康診断、予防注射の徹底による感染症対策+
  - ・精神科医による精神面のケア、認知症状の緩和あ
  - ・歯科医、歯科衛生士の定期的な往診のもと、口腔内の衛生管理による誤嚥性肺炎予防、嚥下機能の維持

その他、言語聴覚士が機能訓練に加わり、嚥下リハ、言語リハに注力しました。

多職種連携によるケアの体制は、今後も更なる充実を図っていきます。

## (3) サービスの内容について

本年度は引き続き、食事、入浴、排泄、接遇といった介護の基本業務をしっかりと行うことはもとより、身体拘束廃止、虐待防止、感染症防止、防災、安全対策、環境整備等にも力を入れて取り組みました。特に感染症防止では、新型コロナウイルスの出現により職員、利用者のマスク着用、手洗い、消毒、検温等の感染防止に注力しました。

レクリエーションやリハビリテーションの充実ということでは、デイサービスと協働してのレク活動に力を入れ、利用者の日常生活にうるおいとやすらぎとかがやきが得られるよう努めました。コロナ禍の中で、ボランティア、インターンシップとのふれあいの機会が少なくなりましたが、本年度は段階的に外部ボランティアとのふれあいの機会を増やし、心身の活性化を図りました。

リハビリテーションは、機能訓練担当の理学療法士を中心に、他職種との協働により、身体、嚥下、言語等の機能面においてより充実したリハビリを実施することがした。

自立支援を目的とし、歩行訓練等の身体リハから言語リハにいたるまで、一人ひとりの個別性を尊重した、きめ細やかなリハビリに取り組みました。

表3 レクリエーションにおける効果

プログラム	心身機能への効果
音楽療法	唱歌、懐メロ等は、認知症状の緩和や精神面への良質な刺激となっている
セラピードック (オンライン)	月に2回のセラピードックは、利用者に寄添うことで癒しや、リハビリの効果をもたらせている
健康吹き矢	楽しみながら、自然に呼吸法を体得できる
書道・そろばん	昔、覚えのある方は自然に筆が動き、指が動き、モチベーションが上がってくる
チェアエクササイズ	身体を動かし、自由に伸び伸びと身体を表現でき、終わった後も、爽快感が残っている
アロマセラピー	アロマの香りを楽しみながら、五感に刺激を与えることで感性が豊かになってくる
コミュニケーションロボット・パロ、アイボ・パルロ・ペッパー	パロとの触れ合いにより、認知症の不安感、不穏を緩和してくれる。アイボは、様々な会話を引き出すきっかけになり、精神面の活性化が見られる
ベランダ菜園	認知症予防プログラムのひとつ。植物を育てることにより、心身への安定と、良質な刺激をもたらせる。



アザラシ型ロボット・パロとのスキンシップ



イヌ型ロボット・aiboとの触れ合い

## 2. 短期入所生活介護

### (1) はじめに

ショートステイはキャンセルや特養の空床があり、利用する立場からすれば昨年に続き比較的にしやすい状況でした。区内の方については、最長で30日利用を基本としつつ、抽選から漏れた方についても、急なキャンセルや特養利用者の入院により空いたベッドをより多くの方に利用していただくため、FAXなどで空き情報をタイムリーに提供しています。毎月、区外の事業所へ案内を出していることなどから、区外の方の利用も多く、かなりの成果をあげています。

別表10に示してあるように、特養・ショート合計の年間稼働率は、前年度101.77%に対して令和4年度は104.31%と上昇しています。ショートステイ単独での年間稼働率は、226.16%であり、昨年度より16.85%減少していることから、特養の稼働率が3.07%上昇しているため、ショートステイのベッド稼働率を減少させたと言えます。

#### ① 周辺環境の変化

隣接区においても特養、老健の増加等があり、競争激化となっています。

#### ② 地域の課題

- ・ 認知症独居高齢者の健康管理 食事・入浴・服薬等
- ・ 認知症高齢者の徘徊・火の不始末等
- ・ 独居高齢者の引きこもりによる認知症の進行
- ・ 高齢者世帯における体調管理
- ・ 高齢者世帯、独居高齢者の金銭トラブル

周辺環境の情報収集・地域の課題を分析し、ニーズを抽出することが重要です。緊急ショート、医療的対応等、多様なニーズにいつでも対応できるだけの層の厚い体制づくりをし、利用者の増員を図っていきます。

表4 前年度との比較 定員6名（空床利用）

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
年度末平均年齢	85.1歳	85.3歳	83.9歳
年度末平均介護度	3.26	3.39	3.58
年度末平均人数	43人	50人	43人
延べ定員数	2,196人	2,190人	2,190人
1日平均利用者数	16.9人	14.6人	13.6人
稼働率	281.33%	243.01%	226.1%

### (2) サービス実施状況

送迎：施設～利用者宅の送迎（ドア ヅ ドアの実現）

エレベーターのない団地等の集合住宅では、階段昇降機（介護ロボット）を

活用し、歩行困難な利用者の送迎を可能としました。

介護：身体状況に応じた食事介助・排泄介助・おむつ交換・体位交換・施設内の移動の介助。

食事：事前の面接時に確認し、身体状況に適した食事を提供しています。

入浴：週3回以上。身体状況に応じ機械浴・介助浴・一般浴にて必要な介助を行っています。

個別機能訓練：小集団訓練の他、希望される利用者には、理学療法士による個別機能訓練が受けられます。その他、レクリエーション・音楽療法・セラピードッグ(リモート)など。

健康管理：毎日のバイタル測定と日々の服薬管理等の健康管理・指導

胃ろう、ストーマ、インスリン、バルーンカテーテル、在宅酸素等の医療的対応。

### (3) サービスに関する苦情・相談

苦情・要望については、速やかに受付票に記録し、誠意を持って対応し解決いたしました。

### (4) 一年の状況と今後の課題

ここ数年の特徴として

#### ① 2ヶ月前の申込みが減少

ショートステイの申込みは通常2ヶ月前を基本としているが、家族の生活スタイルの変化に伴い、1ヶ月前頃より徐々に増えている傾向です。本年度も緊急ショートステイの申込みが多くありました。

#### ②地域、在宅の課題への対応

在宅における生活スタイルが様々なように、ニーズにおいても多様化してきています。地域・在宅における課題が、そのままショートステイ利用につながっているケースが多く、緊急ショートステイ利用が顕著に増えています

在宅における利用者、家族を支えるためのショートステイの役割は、今後もますます重要となるでしょう。そのためには、いつでも対応できる体制づくりと、職員への教育が不可欠です。

## 3. 通所介護

### (1) 利用者の状況

#### ①リハビリニーズへの対応

年齢、性別に関係なくリハビリへのニーズは高く、デイサービスへの目的のひとつ

でもあります。在宅生活を維持していく上で、心身機能の維持、日常生活動作の維持は重要であり、理学療法士のみならず、看護、介護、相談員が連携してニーズに対応しています。

### ② 朝食サービス～夕食サービスまで対応

食事サービスにおいては、本年度も朝食サービス、持ち帰り弁当、夕食サービス等利用への対応を行い、独居、高齢者家族、就労家族等への支援に務めました。

食事サービスとともに食前・食後の服薬管理も行っていることで、在宅生活の負担軽減を図り、在宅生活の維持を支援しています。

#### 《在宅における課題》

- ・ 独居のため、食事、服薬管理が難しい→ 体調の悪化、病気の進行
- ・ 高齢者世帯のため食事作りが困難→ 体調の維持が難しく異常等にも気づきにくい
- ・ 家族が就労中→ 食事時間をとるのが難しい、不規則になりがち

### ③ 医療的対応について

前年度同様、本年度も医療的対応を必要とする利用者が多くいました。胃ろう、インスリン、バルーンカテーテル、在宅酸素、喀吸引、褥瘡処置、ストマ交換、ネプライザー等。これら医療的対応に応じるため、看護師2名体制をとり、手厚いケアに務めています。今後も医療的ニーズの増大は想定され、デイの職員においても知識とケアの質の向上を図ることが課題です。また、訪問診療を利用している利用者が年々増えており、デイの看護師、相談員と、居宅ケアマネ、訪問診療医、訪問看護師との連携が必須となっています。

令和4年度の利用実人員は別表8のとおり1,105人、利用実人員は前年度1,001人と比べて、104人増加、稼働率は68.42%と昨年より0.09%下回っています。延べ利用数は、利用者一人あたりの利用回数が月平均7.68回となり、前年よりも約0.68%減少しています。利用者の平均年齢は別表7のとおり男女合計の平均では83.1歳となっています。内訳では男性80.2歳、女性85.2歳で、前年よりも低くなっています。平均介護度は3.00と、前年とほぼ同じです。

新規利用者においては、医療的ニーズ、在宅における介護者の介護力の低下、家族の就労継続、リハビリ、入浴希望等、様々な理由による申し込みがあります。

デイサービスに係わる送迎利用率は99.1%、入浴利用率は85.0%となっています。前述したとおり、特養・ショートに関しては既に100%以上の稼働率であるので、施設の収入を伸ばすにはデイサービスの稼働率を上げることが急務です。

表5 前年度との比較 定員34名

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
年度末平均年齢	83.1歳	83.5歳	83.1歳
年度末平均介護度	3.14	3.05	3.00

実人数	1,183人	1,001人	1,105人
延べ定員数	12,410人	12,410人	12,410人
1日平均利用者数	25.4人	23.3人	23.3人
稼働率	74.6%	68.51%	68.42%

(2) 運営状況

①行事の実施

開設当初より、利用者の方に生活の豊かさとメリハリを持っていただくために、菖蒲湯や柚子湯など季節に応じた日課活動を取り入れるとともに、特養と合同でイベントを開催しています



春のお花見

盆踊り



くり



立川平林師匠による落語



アコーディオン演奏会





利用者様たちの手作りカルタ



盛り上がるテーブルサッカー

コロナ緩和で再開したアロマテラピー教室

表6 主な行事

4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お花見 小人数つつ京橋公園へお花見に行った。コロナ禍のお花見だが、利用者のイキイキとした表情に、季節感を味わうことの大切さを思う。</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鯉のぼりづくり、かぶとづくりにと、童心に還って楽しんだ</li> <li>・5月1日～7日まで、菖蒲湯祭り 菖蒲の香りに季節感を堪能した。</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紫陽花鑑会 施設中庭に開花した紫陽花を鑑賞、皆で季節感を楽しんだ</li> <li>・大正琴演奏会再開 季節の歌を演奏してもらい皆で初夏を楽しんだ</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・七夕さま 利用者・職員ともに短冊づくりを楽しむ。コロナ収束を祈り、短冊を笹の葉に飾り付けし、涼やかに七夕さまを送った。</li> <li>・スイカ割り大会 デイ・特養合同のスイカ割りは、夏の風物詩として恒例となった。大会後のスイカのおやつは格別である。</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盆踊り大会 コロナ禍となって3年近く開催されなかった盆踊り大会だが本年は、地域ボランティアの協力のもと、盆踊り大会を開催することができた</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬老の日 利用者、職員と敬老の日をお祝いした。久寿玉を長寿の利用者に割ってもらい、健康寿命の大切さを皆で話し合うひと時を設けた。</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋の大運動会は中止</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紅葉狩りはコロナ禍のため中止。紅葉した葉を使って、工作を楽しんだ。</li> <li>・アロマテラピー等、再開。 s y</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリスマスコンサート 職員によるハンドベル演奏が大変好評だった。</li> <li>・恒例の築地ライオンズによるクリスマス会。歌手による歌のプレゼントは利用者の心をなごませてくれた。</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年会 利用者、職員との新年会は、すごろく、福笑い等、伝統的な正月遊びに興じた。</li> <li>・ビンゴ大会を開催 景品のお年玉袋を抱えた利用者の笑顔がイキイキと映えた。</li> </ul>

2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月3日の節分は、職員が鬼になって利用者のフロアを駆け巡った。</li> <li>・コロナ禍での運動不足を防止するため、運動レクを増やしていく。</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族会 コロナ禍のため、前年同様中止となった。</li> <li>・お花見は、近くを施設車で回って桜の開花を見学</li> </ul>

### ③ 送迎について

階段昇降機(スカラモビル・J-マックス)を活用することにより、エレベーターのない団地等の集合住宅に住む利用者のデイサービス利用を可能にすることができました。階段昇降機の支援を必要とする利用者は徐々に増え続け、毎日2名～4名の利用者の昇降を行っています。

送迎においては、中央区他、江東区、港区、千代田区、墨田区まで実施しており、99.1の送迎率となっています。

### ④ 入浴について

デイサービス利用理由の大きなひとつとして入浴があります。その期待に応えるため希望者には基本的には毎回入浴を提供しており、入浴利用率は85.0%です。

身体状況に応じた入浴形態で対応しています。皮膚の異常、バイタルの変動等、入浴時に気づくことが多く、看護師が2名体制で対応しています。

### ⑤機能訓練

理学療法士による個別機能訓練を実施しています。リハビリテーション病院を退院後に通われている利用者も多く、身心機能の維持に努めています。歩行アシスト、免荷式歩行器ポポ、デジタルミラーといったリハビリ・ロボットを活用しながらの訓練は、利用者のモチベーションも向上し、リハビリ効果を見せています。

## 4. 特養・デイサービス合同

### (1)各種委員会

各種委員会は役割と人員を常に見直し

- ①年中行事委員会 ②栄養委員会 ③身体拘束廃止委員会 ④排泄・褥瘡委員会
- ⑤ケアプラン委員会 ⑥感染症対策委員会 ⑦事故防止対策委員会 ⑧防災対策委員会
- ⑨リハビリ委員会 ⑩環境・口腔ケア委員会 ⑪安全・衛生委員会(介護職のための)
- ⑫ロボット委員会

### (2)行事

四季折々の各種行事は、3階フロアを利用して、特別養護老人ホーム・短期入所・通

所介護利用者合同で実施する形をとり、年間を通して各種行事に取り組みました。

### (3)防災訓練

防災管理者及び京橋消防団には、現在 1 名の職員が入団しています。新富町会の防災訓練に参加するなど、防災への知識・技術の向上に務めました。新規に採用された職員には、消防機器訓練を随時実施しています。さらに、京橋消防署への研修参加の他、地域等の協力を得て、毎月 1 回「震災・消防訓練」を実施しています。

### (4)職員研修

- ・ 4 月～3 月：毎月 1 回 本年度もオンライン研修を実施しました。  
ZOOM を使うことで、法人全施設とつながることが可能となり、同時刻に一斉に研修を受けることができるようになったことは、コロナ禍での大きな収穫です。
- ・ ネット配信サービスを活用した「e ラーニング研修」を導入。職員が自分のペースに合わせて、希望するプログラムをいつでも受講することができるというメリットがあります。

表 7 資格取得等に向けた職員研修(令和 4 年 4 月～令和 5 年 3 月)

研 修 名	特 養	通 所	訪 問
初任者研修	0 人	0 人	0 人
実務者研修	0 人	1 人	0 人
介護福祉士資格取得研修	0 人	0 人	0 人
在宅療養研修	1 人	1 人	0 人
権利擁護：虐待防止研修	1 人	1 人	0 人
口腔ケア研修会	1 人	1 人	1 人

表 8 社 内 研 修

No.	名 称	開催日	参加人数	実 績
	オンライン研修 18:00～19:00	令和 4 年 4 月初～ 令和 5 年 3 月末	特養 デイ	講師：勝野顧問 常勤・非常勤対象
3-1	高齢者の権利擁護について	4/11	17 名	特養 2 名・デイ 3 名・訪問 3 名 栄養士 1 名・理学療法士 3 名 事務 3 名 相談員 1 名 施設長 1 名
3-2	事故防止への取組みについて	5/9	20 名	特養 3 名・デイ 5 名・訪問 2 名 栄養士 1 名・理学療法士 3 名 事務 3 名 相談員 2 名 施設長 1 名

3-3	高齢者施設における感染者対応について	6/13	16名	特養4名・デイ8名・訪問2名 栄養士1名・理学療法士2名 事務2名 ケアマネ1名 施設長1名
3-4	脱水・熱中症・水分補給について	7/11	16名	特養3名・デイ4名・訪問2名 栄養士1名・理学療法士2名・相談員1名・事務2名・施設長1名
3-5	特別養護老人ホームにおける褥瘡ケアについて	8/8	18名	特養3名・デイ4名・訪問3名 栄養士1名・理学療法士1名・相談員1名・事務2名・施設長1名
3-6	看取りについて	9/12	18名	特養4名・デイ3名・訪問2名 栄養士1名・理学療法2名・ケアマネ1名・相談員2名・事務2名・施設長1名
3-7	新型コロナウイルス等の感染症対策について	10/10	18名	特養4名・デイ5名・栄養士1名 理学療法士2名・ケアマネ1名 相談員2名・事務2名・施設長1名
3-8	身体拘束・虐待防止について	11/14	22名	特養4名・デイ7名・栄養士1名 理学療法士2名・ケアマネ1名 相談員2名・事務2名・施設長1名・訪問2名
3-9	リスクマネジメントについて	12/12	19名	特養3名・デイ4名・栄養士1名 理学療法士2名・ケアマネ1名 相談員2名・事務2名・施設長1名・訪問2名
3-10	苦情対応について	1/9	17名	特養3名・デイ5名・栄養士1名 ケアマネ1名・相談員2名・事務2名・施設長1名・訪問2名
3-11	感染症対策について	2/13	20名	特養4名・デイ6名・栄養士1名 ケアマネ1名・相談員2名・事務2名・施設長1名・訪問2名 理学療法士1名
3-12	看取りについて	3/13	16名	特養4名・デイ4名・栄養士1名 ケアマネ1名・事務2名・施設長1名

				設長 1 名・訪問 2 名・理学療法士 1 名
3-13	新人研修 認知症高齢者への理解と ケア 事故防止への取組み 身体拘束廃止・虐待防止への 取組み	4/1・6/23・7/25 11/29	4 名	特養 1 名 デイ 3 名

#### (6) ボランティア・実習生の受け入れ

地域交流、デイサービスの日課活動の潤活化および初任者研修の実習の場として受け入れをしています。

定期的なボランティアとして朗読ボランティア、書道ボランティア、傾聴ボランティア等が年 12 回。その他、デイでは地域の方や、外国の方を含めたボランティア団体が利用者の話し相手、フロアの手伝いボランティアとして定期的に訪問してくれていましたが、コロナ禍となり外部ボランティアも制限することになりました。本年度は段階的に再開し、感染防止対策を取りつつ、コロナ禍前に近づけている状況です。

本年度は実習生の受入れ 32 名、職場体験 6 名、インターンシップ 11 名の受入れがありました。

実習生、インターンシップ、ボランティアとの交流は、日頃触れることの少ない若年層との世代間交流として、利用者一人ひとりに良質な刺激をもたらせる効果があるため、コロナの状況を踏まえつつ再び積極的に受け入れていきます。

表 9 令和 4 年度・実習生等の受け入

項 目	人 数 (延)
介護福祉士取得	0 人
教員免許取得希望者介護体験	32 人
職場体験	6 人
インターンシップ	11 人
小・中学生ボランティア実習	0 人
イナッコ教室ボランティア	3 人
春休み福祉体験合宿	0 人

#### (7) 技能実習生の受け入れ

令和 3 年 3 月より、中国からの技能実習生 1 名の受け入れを行いました。

指導員として、特養・デイの介護職 5 名を選び、介護業務、介護技術・接遇等の習得を目的として育成していきます。期間は 3 年間です。

(8)本年度の取組みについて

◆特養・デイ合同

期 間：令和3年10月～令和5年3月末

コロナ感染防止対策に向けて施設一丸となって取り組んできた日々であったが、感染防止対策訓練及び活動記録を一定の成果として「新型コロナ感染症対策委員会」に記録しました。

別表 11「新型コロナ感染症対策委員会」参照

◆デイサービス

認知症予防プログラムへの取り組み

- ・ゴーヤカーテンづくり
- ・ベランダ菜園

本年度も昨年に引き続き利用者様へのプログラムの一環として、認知症予防プログラム：ゴーヤカーテンづくり、ベランダ菜園に取り組みました。

種を蒔くことから始め、発芽し、蔓が伸び、つぼみをつけ、花と開花していく様はコロナ禍で引き籠もる時間の多い高齢者にとって、大変良い刺激となりました。

本年は、ゴーヤ他、まるまるとしたナスが実り、昼食の一品として提供し、収穫の喜びを利用者様に楽しんでいただきました。



収穫に喜ぶ利用者の皆さま

## (9) 地域公益活動

### ① 東京子育て応援事業

平成28年6月～平成30年3月末の2ヶ年にかけて、東京都の助成事業「東京子育て応援事業」に取り組んできましたが、助成期間を過ぎた後も継続して運営してきました。

平成30年4月からは、法人の独自事業として「子ども英会話教室」を開催し「子どもそろばん教室」「子ども食堂」と併せて、地域の子どもたちの安心・安全な居場所づくりとして運営を展開してきました。

### ② 平成30年度子供が輝く東京・応援事業

「成果連動型助成(既存の取組みレベルアップ)」に選定

平成30年度子供が輝く東京・応援事業に選定されました。成果連動型助成という、成果に応じて1/4、3/4と助成が連動していくため、成果をより見える化していかなければならない取組みです。

- ・事業実施期間：平成31年4月～令和3年3月31日
- ・実施事業名【未来の社会で輝ける子育て支援事業の実現】
- ・事業計画

#### 【プログラム】

- 1) 1ヵ月め：アンケートの作成  
登録書の配布  
地域への説明会(学校、保護者等)
- 2) 2ヵ月め：評価指標のデータの収集方法と書式の整理  
登録書の受領  
体験学習の実施
- 3) 3ヵ月め：指標データの評価と進め方の見直し・改善案の検討

#### 【成果目標】

- 同世代、多世代とのコミュニケーションを取りながらの食事は、食べることへの楽しみを育み、感性を養い、孤食問題への一助となる。
- そろばん教室で数多くの問題を繰り返し反復練習することによって忍耐力を鍛え、英会話教室で異文化と触れ合うことで国際感覚を養うことを目指す。
- 介護現場体験を通して「高齢者と介護」というテーマに自然に向き合える人間形成を実現する。

#### 【実施状況】 平成31年4月～令和2年3月末

- 新とみ 子どもそろばん教室+子ども食堂 7回開催
- 新とみ 子ども英会話教室+ 子ども食堂 8回開催

●土支田 子どもそろばん教室+子ども食堂 4回開催

●土支田 子ども英会話教室+ 子ども食堂 4回開催

※戸山いつきの杜については、令和2年3月15日より実施の予定だったが、感染症の流行により延期となった。

【実施状況】 令和2年4月～令和3年3月末

※ コロナ感染防止のため、新とみの子ども食堂は中止

○新とみ 子どもそろばん教室 2回開催

○新とみ 子ども英会話教室 2回開催

●土支田 子どもそろばん教室+子ども食堂 2回開催

●土支田 子ども英会話教室+子ども食堂 2回開催

◎戸山 子ども英会話教室+子ども食堂 1回開催

本年度は、各事業所ともにコロナの影響を受け開催月は大幅に減ってしまいました。

平成30年4月1日～令和3年3月31日まで取り組んできた「子どもが輝く東京応援事業：成果連動型助成」の実績を東京都福祉保健財団に提出しました。

子ども・親へのアンケート結果の集計を基に、評価指標データ-の集計結果として子ども・親への成果は3/4助成という形で、東京都福祉保健財団より一番高い評価をいただきました。

子育て応援事業については、助成期間を終了したあとも、法人独自の事業として継続していきます。

令和3年度以降は、法人独自の事業として取り組んできました。感染状況に応じて、開催・中断を繰り返してきましたが、子どもたちはいつでも「自分たちの居場所」として集まっています。

【実施状況】 令和4年4月～令和5年3月末

※コロナ感染拡大防止のため引き続き、子ども食堂は中止

○新とみ 子どもそろばん教室 11回開催

○新とみ 子ども英会話教室 11回開催

●土支田 子どもそろばん教室 10回開催

◎戸山 子ども英会話教室 7回開催



# 子ども英会話教室・そろばん・みんなで食事

開智日本橋学園・上智大学留学生のボランティアの皆さんと

平成30年4月～令和2年3月末

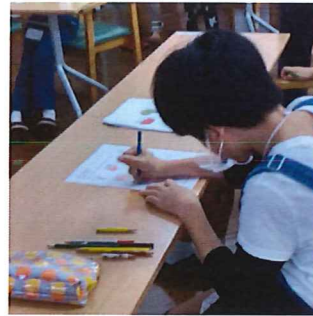
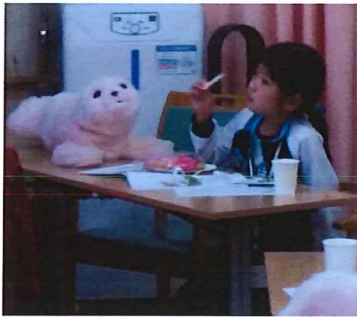


令和3年～令和5年3月末

コロナ禍の中でマスク着用で実施



年



## 5. 訪問ヘルパーステーション

### (1)はじめに

平成28年3月1日、新とみ併設として「ウィング訪問ケアステーション」を開設しました。本年度も新規利用者の開拓に力を入れましたが、移動時間の効率性・ヘルパーの負担軽減・業務効率を考え、近隣でのサービス開拓に注力いたしました。

1. サービス提供時間 8時30分～18時(時間外については応相談)
2. 実施地域 中央区・港区・千代田区・江東区
3. サービス内容 身 体：排泄介助、オムツ交換、食事介助、口腔ケア等  
生活援助：掃除、買い物、デイサービスの送迎支援等
4. 本年度利用者実人数 397人 昨年度 444人
5. 新規利用者数 19人 昨年度 29人

表 10 要介護度別利用者状況

要介護度	3年度利用人数	3年度延人数	4年度利用人数	4年度延人数
要支援 1	59人	252人	36人	172人
要支援 2	49人	215人	65人	350人
要介護 1	71人	388人	94人	697人
要介護 2	87人	666人	67人	685人
要介護 3	107人	1,631人	119人	1,832人
要介護 4	44人	515人	4人	22人
要介護 5	27人	200人	12人	76人

#### ① 利用者の状況

表 10にあるように、要支援から要介護5の利用者まで、生活、身体介助と幅広いニーズがあります。要支援の利用者には、利用者の自立支援を促す援助を行うことが重要であり、質の高い援助技術が求められます。

在宅においては、介護度の高い利用者が訪問介護サービスを利用しながら在宅生活を維持しており、利用者はもとより、家族の生活を支える上でも訪問介護は重要な役割を果たしています。

今後、訪問看護、訪問診療等様々なサービス提供事業者との連携が不可欠であり、情報共有を図りながら、清潔かつ安心・安全な在宅生活の維持に努めます。

本年度も新型コロナウイルスの影響を受け、訪問サービスのキャンセル等があり、売り上げにも影響がありました。

#### ②地域・在宅の課題

- ・在宅における、劣悪な療養環境の問題
- ・認知症状の進行におけるもの盗られ妄想による金銭トラブル
- ・近隣住民とのトラブル
- ・家族の介護ストレスによる心疾患

これら地域・在宅における課題は、訪問ヘルパーが関わるケースも多々あり、研修を始めた教育は必須であり、質の高いサービス提供が急がされます。

(別表1)

## &lt; 年度末平均年齢 &gt;

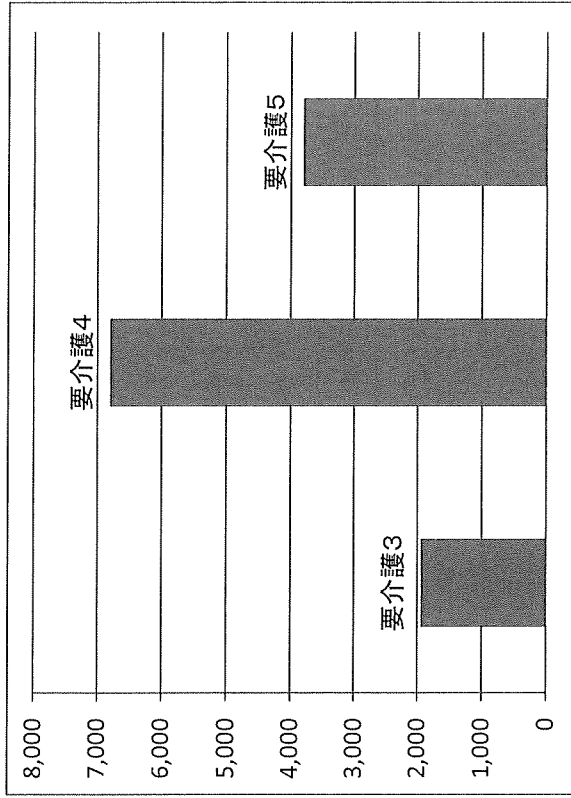
性別	人数	平均年齢	年齢分布
男	12名	81.7	59～99
女	24名	87.3	73～103
(全体)	36名	85.4	59～103

(別表2)

## &lt; 月別利用者の状況 &gt;

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護3	150	138	180	155	155	122	168	171	186	166	168	186	1,945
要介護4	563	620	532	547	518	540	581	587	619	586	524	591	6,808
要介護5	374	305	332	372	318	300	310	299	310	310	280	297	3,807
計	1,087	1,063	1,044	1,074	991	962	1,059	1,057	1,115	1,062	972	1,074	12,560
要介護平均	4.21	4.16	4.15	4.20	4.16	4.19	4.13	4.12	4.11	4.14	4.12	4.10	4.15
美人員	37	37	37	36	36	35	38	38	36	36	36	36	438
述べ定員数	1,200	1,240	1,200	1,240	1,240	1,200	1,240	1,200	1,240	1,240	1,120	1,240	14,600
1日平均利用者数(A)	36.2	34.3	34.8	34.6	32.0	32.1	34.2	35.2	36.0	34.3	34.7	34.6	34.4
稼働率	90.58%	85.73%	87.00%	86.61%	79.92%	80.17%	85.40%	88.08%	89.92%	85.65%	86.79%	86.61%	86.03%

(別表3)

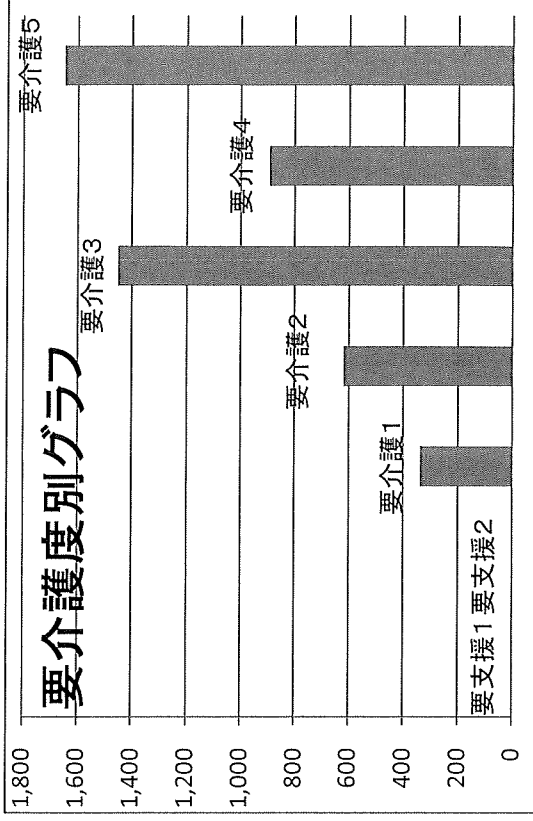


(別表4)

< 年度末平均年齢 >

性別	人数	平均年齢	年齢分布
男	16名	82.6	69～94
女	27名	84.6	53～97
(全体)	43名	83.9	53～97

(別表6)



(別表5)

< 月別利用者の状況 >

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1													
要支援2													0
要介護1	31	35	36	32	49	23	36	10	23	16	14	34	339
要介護2	22	37	72	46	58	61	35	57	53	73	53	52	619
要介護3	126	178	131	153	130	165	182	81	80	104	63	58	1,451
要介護4	61	58	39	22	80	99	73	63	80	89	139	92	895
要介護5	126	141	140	124	120	163	149	138	142	144	118	144	1,649
計	366	449	418	377	437	511	475	349	378	426	387	380	4,953
要介護平均	3.63	3.52	3.42	3.42	3.38	3.62	3.56	3.75	3.70	3.64	3.76	3.68	3.58
実人員	46	51	52	46	54	57	49	51	49	41	40	43	579
延べ定員数	180	186	180	186	186	180	186	180	186	186	168	186	2,190
1日平均利用者数(A)	12.2	14.5	13.9	12.2	14.1	17.0	15.3	11.6	12.2	13.7	13.8	12.3	13.6
稼働率	203.33%	241.40%	232.22%	202.69%	234.95%	283.89%	255.38%	193.89%	203.23%	229.03%	230.36%	204.30%	226.16%

ショートステイ（介護予防含む）（定員6名）

(別表7)

&lt; 年度末平均年齢 &gt;

性別	人数	平均年齢	年齢分布
男	45名	80.2	52～98
女	62名	85.2	53～103
(全体)	107名	83.1	52～103

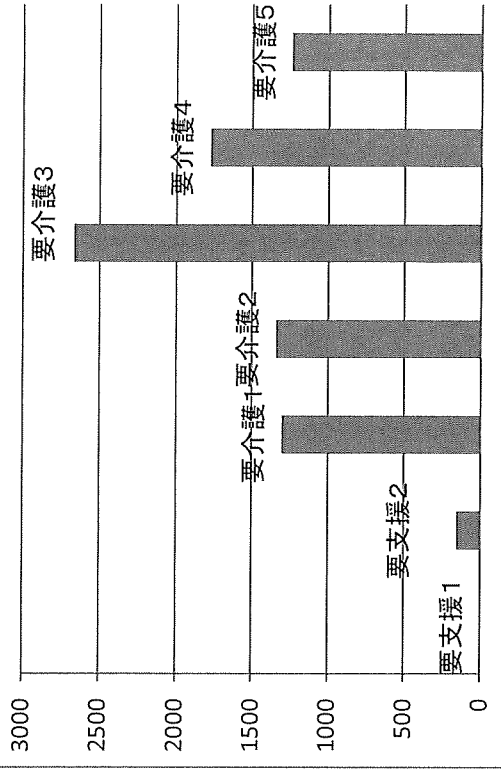
(別表8)

&lt; 月別利用者の状況 &gt;

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1													0
要支援2	12	13	13	12	14	16	18	18	16	8	8	8	156
要介護1	146	135	145	133	102	111	102	85	91	78	86	91	1,305
要介護2	118	120	98	86	111	113	120	119	127	123	105	103	1,343
要介護3	220	256	276	233	220	194	203	235	237	200	204	187	2,665
要介護4	199	172	168	137	143	154	152	129	108	138	121	157	1,778
要介護5	107	103	116	118	85	97	104	88	121	112	93	100	1,244
計	802	799	816	719	675	685	699	674	700	659	617	646	8,491
要介護平均	2.97	2.95	2.98	3.00	2.96	2.97	3.00	2.97	3.01	3.10	3.02	3.09	3.00
実人員	102	104	102	104	91	90	90	84	88	89	79	82	1,105
述べ定員数	1,020	1,054	1,020	1,054	1,054	1,020	1,054	1,020	1,054	1,054	952	1,054	12,410
1日平均利用者数(A)	26.7	25.8	27.2	23.2	21.8	22.8	22.5	22.5	22.6	21.3	22.0	20.8	23.3
稼働率	78.63%	75.81%	80.00%	68.22%	64.04%	67.16%	66.32%	66.08%	66.41%	62.52%	64.81%	61.29%	68.42%

(別表9)

## 要介護度別グラフ

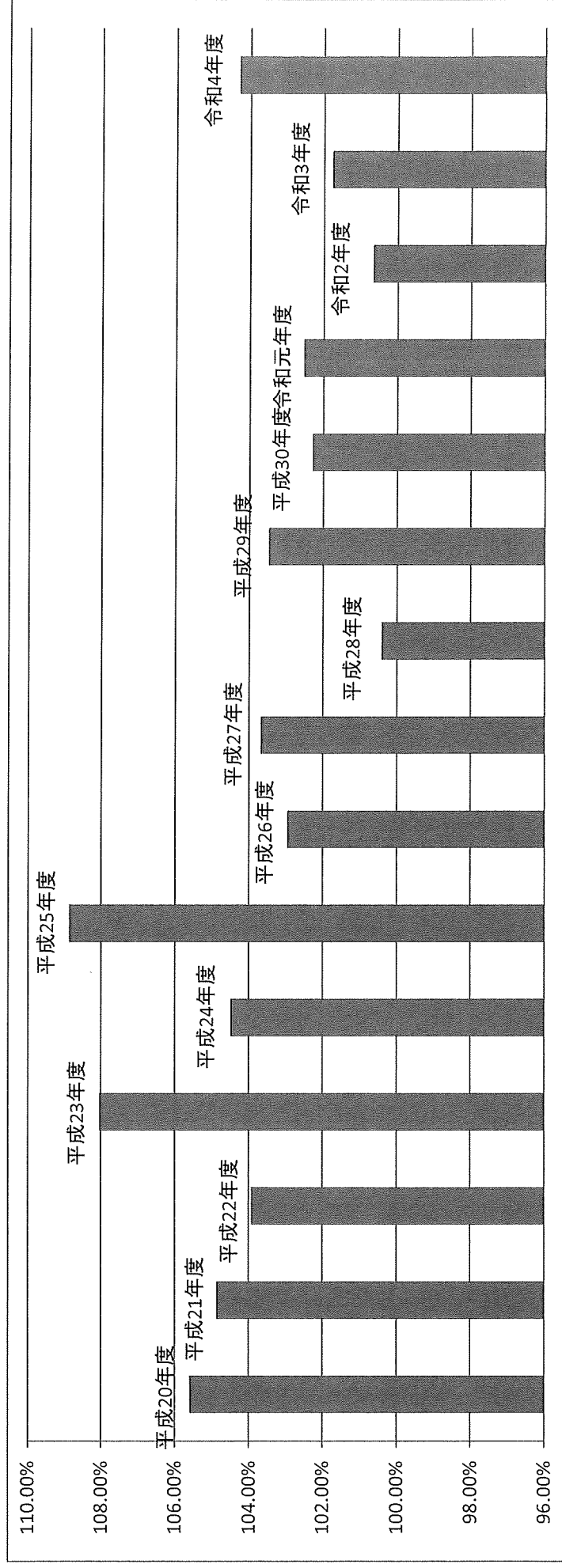


(別表10) &lt;月別稼働率&gt;

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
特養	1,087	1,063	1,044	1,074	991	962	1,059	1,057	1,115	1,062	972	1,074	12,560
ショートステイ	366	449	418	377	437	511	475	349	378	426	387	380	4,953
計	1,453	1,512	1,462	1,451	1,428	1,473	1,534	1,406	1,493	1,488	1,359	1,454	17,513
延べ定員数	1,380	1,426	1,380	1,426	1,426	1,380	1,426	1,380	1,426	1,426	1,288	1,426	16,790
稼働率	105.29%	106.03%	105.94%	101.75%	100.14%	106.74%	107.57%	101.88%	104.70%	104.35%	105.51%	101.96%	104.31%

特養・ショート(定員46名)

(別表11)



稼働率

20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
105.61%	104.88%	103.93%	108.05%	104.50%	108.88%	102.96%	103.69%	100.42%	103.48%	102.29%	102.54%	100.67%	101.77%	104.31%

# 新型コロナウイルス感染症対策委員会

構成メンバー	役割分担	対応内容	反省点	改善点
施設長	施設全体の感染防止管理	感染症発生状況の把握・感染拡大防止の指示	様々な要因が重なり、初期における発生状況の把握	PCR検査の実施・ワクチン接種の推進
	職員への心身の健康管理	保健所・区・受入れ先医療機関への対応	判断が難しかった。	多床室における職員一人ひとりの感染防止対策の見直し
	職員の勤務調整	現場へのサポート体制・職員勤務調整・	その場で判断、指示をすることが多々あり、一つひとつ確認する余裕がなかった。	職員配置の改善(感染発生時のアロア固定等)
	現場における職員配置の指示	法人施設への応援依頼・職員配置の指示		看護・介護職への感染対策の教育・トレーニング
事務職 (設備・事務等担当)	各部署への指示	利用者の入院・退院対応		感染症対策委員会の機能の見直し、強化
	感染症防止用衛生用品の管理	感染症防止用衛生用品・備品の補充・調達	防護服等の管理がスムーズにできていなかった	衛生用品・備品等の管理システムの改善
	施設内設備等の除菌管理	各部署への連絡	各部署への伝達がうまくいかなかったことがある	連絡系統の見直し、改善
	感染症に係る申請等の事務	施設内設備の除菌		
嘱託医	感染症への専門的知識・情報の提供	利用者・職員へのPCR検査実施		職員への感染防止対策の徹底
	医療面・治療面担当	利用者・職員への健康観察指示		
	感染対策担当・研修計画策定	行政・関係機関との連携		
	利用者の健康管理:異常等の早期発見、健康観察	感染症発生状況の把握・報告	感染症対策委員会において、感染対策担当を担っているが、感染症発生から拡大までの間、利用者の体調変化・異常の見極め、把握が難しく、陰圧室への隔離に手間取った。	今回のコロナ感染・感染拡大を踏まえ、感染対策担当としての役割を見直し、機能を強化・向上させるよう、反省点の一つひとつ検証していく。
介護職 (特養2名・デイ1名)	利用者のケアにおける感染防止指示	食事・排泄等のケアにおける感染防止指示		日頃から現場における感染対策を意図づけていく
	感染防止対策の現場への周知	感染症発生状況の把握・報告	発生状況の把握から、陰圧室への利用者隔離及び、陰圧室での個別ケア対応の大幅な変更がなかった。日頃から、職員一人ひとりの感染防止対策の見直し・改善	多床室における、感染防止対策の見直し・改善
	利用者ケアへの感染対策	職員配置の変更・勤務調整		
	利用者の体調確認	陰圧室利用者へのケアの体制づくり	熱発利用者への隔離体制をとることを意識づけ、実践的、トレーニングを積むことの必要性を覚えた。	職員配置の見直し、改善
栄養士	研修計画の実践・トレーニング	入院・退院時の居室調整		
	食事の提供における感染対策(厨房・食堂・食事介助等)	陰圧室対応利用者への食事提供については使い捨て食器・色分けトレイ使用、都度消毒	予期せぬ人数への対応のため、非常時用として確保していた使い捨て食器が不足し、急ぎ補充した	使い捨て食器については、余裕をもった在庫確保が必要
	家族・居宅ケアマネへの連絡	家族・居宅ケアマネへの連絡・対応・ショート調整	特養・ショート・デイとの連携体制で動いていた	陰圧室対応の利用者への食事・水分補給の見直し
	行政・関係機関への報告・連携	行政・関係機関への報告・連携・資料等の作成	事業所間での感染状況が、全体的にとらえてしまいがちであった。連絡系統が相談員に集中したため、業務量が日に日に増大していった。	特養・ショート・デイにおける分布図を基本に、感染拡大を把握する。 連絡系統を見直し、役割分担を改善する。
相談員 (特養1名・デイ1名)	感染分布図・記録等資料作成	嘱託医へのPCR検査依頼・検査実施者のリスト作成		
	利用者への支援(生活全般)	利用者の入院・退院時の支援(施設車手配等)		